

科目名	生活化学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	1	1	前期			
担当者名	石丸 隆行 城田 久岳	関連する資格					
授業概要 生活化学では、栄養士に必要な食品学実験や生化学実験などにおいて基礎となる、指数や濃度計算について説明する。また、これら実験で使用する実験器具の使い方についても説明し、専門教育科目の実験に備える。 実験操作や実験方法について学ぶのは当然であるが、それと同じくらい自ら考え、わかったことを文章にすることは大事である。レポートの書き方についても説明する。							
到達目標 1. 最低限の試薬の調製ができるようになる。 2. 実験器具を使えるようになる。 3. 基礎的な実験及び計算ができるようになる。				成績評価方法 レポート、授業態度などを総合的に評価する。			
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験（中間・期末）							
小テスト、授業内レポート	○						10
宿題、授業外レポート	○	○	○				60
授業態度・授業参加度				○	○		30
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							
授業計画と概要					アクティブラーニング		
1) 授業概要の説明、入学前教育（計算問題）解説							
2) 化学の基礎 1 指数計算					個人ワーク		
3) 化学の基礎 2 原子の構造					個人ワーク		
4) 化学の基礎 3 原子の電子配置					個人ワーク		

5) 化学の基礎 4 共有結合	個人ワーク
6) 化学の基礎 5 質量数と原子量	個人ワーク
7) 化学の基礎 6 分子量と式量	個人ワーク
8) 化学の基礎 7 グラム当量	個人ワーク
9) 化学の基礎 8 規定度	個人ワーク
10) 化学の基礎 9 中和反応	個人ワーク
11) レポートの書き方と実験準備 レポートの書き方、器具の使い方、試薬の調製	フィールドワーク
12) 実験 1 中和滴定 既知試料 酸とアルカリによる中和滴定	フィールドワーク
13) レポートの訂正、説明 レポートの訂正、書き方の再説明	フィールドワーク
14) 実験 2 中和滴定 未知試料 酸とアルカリによる中和滴定	フィールドワーク
15) 小テスト 今までの授業のまとめ、小テスト	小テスト
授業外学習	
<p>1. テーマごとに実験レポートを書き、考える能力や文章作成能力を高めることが大事である。</p> <p>2. 課題を出す場合もあるが、わからないときは教科書やネットを使って調べるなどして取り組むよう努めること。ただし、教科書やネットの情報を丸写ししないようにする。調べて得た情報を一度、自分の中で消化・吸収してから、自分の言葉を使って文章を書くことが大事である。また、自分の言葉で書いた文章を読みなおして、自分が言いたいことがその文章を読んで伝わるかどうかを確認してみることも大事。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
プリントを配付する。	食品学実験、生化学実験、食品衛生学実験
備考	
<p>授業の始めに大事なことを説明することが多いので、遅刻や欠席はしないように。 レポートはきちんと出すこと。一回でも出さないと不可となるので注意すること。 【オフィスアワー】石丸 隆行</p>	